



国際会長 (IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

“Let Your Light Shine”

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 立花 明美

<今月の聖句>

秋元 美晴

あなたがたが年老いるまで、私は神。
あなたがたが白髪になるまで、私は背負う。
私が造った。私が担おう。
私が背負って、救い出そう。

(『聖書協会共同訳聖書』 イザヤ書 46:4)

今月の一言

ワイズの基本を想う

古田 和彦

2021年7月1日にワイズメンズクラブ国際協会東日本区は日本の法律による一般社団法人格を取得しました。したがって、現在の正式名称は、「一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」となっています。このことについては賛否両論がありましたが、団体(ワイズメンズクラブ)の信用が高まることや、行政や企業に対する補助金の申請などに有利に働くなどのメリットを期待しての取得でした。

私は、東日本区の特別委員会、「法人推進委員会」メンバー

となり、その推進に関与してきましたが、団体の実体・本質を短く表現する「法人概要」作成チームの一員となり、このたび、やっと原案をまとめることができました。

これは、A4版8ページのものですが、そのうち、5ページが「ワイズメンズクラブの活動」で占められています。たくさん書きたいことがある中で、厳選されて紙面に記載されたこと、そのことはワイズメンズクラブが大切にしていることと思うわけです。その内容を紹介します。

1. ワイズメンズクラブの活動 目的

わたしたちは、ワイズメンズクラブ国際協会のモットー「強い義務感を持つ、義務はすべての権利に伴う」のもと、世代、性別、宗教等の違いを乗り越えて多様性を認め合い、YMCA および地域社会に貢献することを目的としています。世界のそして東日本区の会員は、相互の絆を深め、愛と奉仕を通して、世界の平和と人類の幸福の実現に寄与することができるよう、絶えず努力を続けていきます。

この目的を達成するために、ワイズメンズクラブが行っている事業活動は大きく分けると4つに分類できます。

2. 4事業

①国際協会の事業 ②YMCA 支援事業 ③地域奉仕事業 ④ユース支援事業

4事業について概要にはそれぞれ代表的なものを挙げ、説明しています。YMCA 支援事業は、チャリティーランや日本語スピーチコンテスト、バザー支援など、地域奉仕事業は、子ども食堂、いろいろな被災者支援など、ユースは、YVLF(ユースボランティアリーダーズフォーラム)他など、比較的身近に感じるものですが、国際協会の事業は良く見えないものなので、改めて紹介いたします。私たちは、国際協会に献金をしています。例えば、RBM(ロールバックマラリア)には一

<2023年4月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メ 10名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 3名 ゲスト 0名 合計 14名	83 % (メーキャップ 名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<5月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
27	土	14:00	横浜 YMCA 会員総会	聖光学院

人当たり 800 円です。これはユニセフ等が行う世界規模のマラリア撲滅キャンペーンのために用いる献金で、ワイズ国際協会が取りまとめる世界全体では 2021 年度 10 万ドル以上をささげています。また、TOF (タイムオブファスト) は一人当たり 1,300 円です。この献金の趣旨は、断食をして、その浮いた食事代を発展途上国の支援金に充てるという事業です。こちら世界規模では 10 億円単位で支援を行っています。

以上、概要の一端を紹介しました。私たちは、YMCA 支援を中心としていますが、それに加えて、国際的にも献金というわざを通して世界に貢献しています。「世代、性別、宗教等の違いを乗り越えて、世界の平和と人類の幸福の実現に寄与する。」、このことに賛同する方を一人でも多くワイズに加えることが、さらに多くの貢献を行うことになるのです。会員を増やす意味がここにもあるのではないのでしょうか。

4月第一例会報告

古賀 健一郎

日時 : 4月13日(木) 18:30~20:15

場所 : 中央Yチャペル+Zoom

出席者 : 秋元、大高、古賀、齋藤、佐竹、立花、古田、

(Zoom) 伊藤ル・メ、田口、松島

ビジター: 鈴木茂(つづき)、佐藤節子(厚木)、千葉裕子(鎌倉)

例会は、大高ワイズの司会により定刻に開始。古賀会長の開会点鐘、挨拶に続いて、ワイズ信条唱和。古田ワイズによる今月の聖句朗読とお祈り。

「新型コロナウイルスと共存する新たな日常」へ歩みだす為、「対面式での会場参加型の例会」に重点に置くことにした。(Zoom 併用のハイブリッド方式は継続しながら)

そこで、今回の例会において、3年ぶりに正式のクラブ入会式を挙行了。

①【横浜クラブ入会式】

(1) 入会者

《秋元美晴さん》(2021年4月1日入会であったが、コロナ危機の影響で入会式が延期されていた)

★大学にて日本語教育・日本語教員養成にご尽力されている。横浜 YMCA 専門学校・横浜クラブ・厚木クラブ共催で毎年開かれる、日本語学科留学生による『日本語スピーチコンテスト』の審査委員長も引き受けて下さっている。

《立花明美さん》(2023年4月1日入会)

★本年4月より、横浜クラブの担当主事に就任された。ワイズと YMCA とを結ぶ役割を担っていただく。さらに同時に、横浜 YMCA 学院専門学校の校長と横浜中央 YMCA 副館長に就任された。

(2) 入会式

①立会人を下記の3人の方々にお願いした。

・鈴木茂ワイズ(本日の卓話者、横浜つづき前会長、横浜 YMCA 常議員会議長)

・佐藤節子ワイズ(湘南・沖縄部会員増強事業主査、厚木クラブ会長)

・千葉裕子ワイズ(鎌倉クラブ前会長、横浜 YMCA 常議員)

②古賀会長が開会の言葉を述べ、「ワイズメンズクラブ国際協会 入会式・式文」を朗読した。

③秋元美晴さんと立花明美さんは、ワイズの入会式・式文に示された目的と意義を認め、この目的のために誠実に奉仕し、積極的に献身されることに、同意する旨の意志を表明された。

④国際協会ワイズメンズクラブを代表して心からお二人の入会を歓迎し、ワイズバッジを付与して、お二人の入会を承認した。

★ワイズバッジの装着を佐藤節子湘南・沖縄部会員増強事業主査にお願いした。

⑤記念品の贈呈を千葉裕子鎌倉クラブ前会長にお願いした。

⑥入会者の挨拶

《秋元美晴ワイズ》

「ワイズメンズクラブで YMCA の仕事をさせていただきながら一生を終えられたらいいなあと思っていた。日本語教育を通じた国際交流にこれまで携わってきたので、クラブの諸先輩のご指導も受け、何かに貢献できたら…と思っている。」

《立花明美ワイズ》

「ワイズメンズクラブに関わることは初めてであり、YMCA のことを違う角度から見て活動できれば…と思っっている。YMCA で経験するヒューマンネットワーク、の学びから“人のつながりあって今の自分がある”と考え。それを大切にしたい。」

⑦立会人からの祝辞

《佐藤節子湘南・沖縄部会員増強事業主査》

「秋元さんには既に厚木クラブの卓話などでお世話になり、立花さんとは以前、厚木 YMCA でお世話になりました。ワイズの仲間としても、さらに関係を深めていきたい」

《千葉裕子鎌倉クラブ前会長》

「歴史ある横浜クラブですが、会員は長い間男性ばかりでし



入会者の秋元さん、立花さんを囲んで
立会人の鈴木さん、千葉さん、佐藤さん

た。お二人が入られて、急にクラブの雰囲気も華やかになって素敵ですね。今後一緒に何かできますね。」

⑧古賀会長の閉会の辞で、喜びと感謝の入会式を終えた。

②【卓話】

例会の卓話は、鈴木茂ワイズの『YMCA とワイズに見る使命と意義』と題してのお話。

鈴木茂ワイズは、横浜つづきワイズメン&ウイメンズクラブ前会長、横浜 YMCA 常議員会議長職の任にある。ワイズ・YMCA において豊富な経験と優れた知見をもっておられる。今回は、ワイズ関係者、特にクラブ入会者の方々には、ワイズ・YMCA 理解の上で良き学びとなると考え、鈴木ワイズに卓話を依頼した。



卓話の風景

以下は鈴木茂ワイズのお話の抜粋です。

I. 【ワイズメンクラブについて】

1. ワイズメンの条件

*ワイズメンズクラブの会員は、YMCA の会員になるものとする(東日本区定款)

2. ワイズのモットー・綱領・目的(東日本区定款)

*東日本区のモットー：「強い義務感を持つ。義務はすべての権利に伴う」

*東日本区の綱領：「国際憲法に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の実践を目指し、YMCA とともに、よりよい世界の実現のために努力する」

*東日本区の目的：「区内各クラブが国際憲法に基づき、敬愛の念をもって交わり、国際協会の綱領と目的を達成し、さらにこの運動を広く区内に拡張するために、相互に協力すること」(同2条3項)。

3. ワイズの使命

*「ワイズメンズクラブ国際協会は、イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思想に結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く世界的友好団体であり、YMCA に対する忠誠心を共にしつつ、活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して全人類のため、よりよき世界を築くべく尽力するものとする」(国際憲法 第2条第1項)。

3. 「ワイズ」の特質<小堀理論(元中央大学法学部教授小堀憲助氏)>

◆ 奉仕団体である

①YMCA に対する奉仕活動

*Ys メン= YMCA の人、YMCA のための人。

②地域・国際社会への奉仕

◆ 親睦団体である

①親睦の本質：会員相互の交流から得られる心の豊かさ。世

のため、人のために奉仕するエネルギーの源泉。

②奉仕と親睦の相互作用：奉仕活動における協働作業を通して親睦が育まれる。

③親睦を保持する秘訣：誰もが幸せを求める権利を持っていることを認め合う。

5. ワイズ誕生の経緯

*1920年、オハイオ州トレド YMCA の会員担当主事・エヴァンスが、YMCA ボランティアとして熱心な会員 17 名を集めて、ランチョンクラブを設置(昼食例会)。

*その中に、ワイズメンズクラブの生みの親とされるポール・ウイリアム・アレキサンダーというハーヴァード大学を卒業したばかりの若き弁護士がいた。

*アレキサンダーは、このランチョンクラブの活動を北米各地に広げる推進者となり、1922年に、アメリカ・カナダ2カ国 17 クラブによる「ワイズメンズクラブ国際協会」という国際組織を結成。

*その後、世界各地にクラブが設立され、地域の YMCA への奉仕活動を行なうとともに、国際間の交流が活発化した。

6. 日本のワイズメンズクラブ

◆ 世界の「ワイズ」の中で古い歴史を誇る日本のクラブ

*1928年 大阪クラブ設立(大阪 YMCA・奈良伝主事による紹介、北米以外では上海に次いで2番目)

*1930年6月 神戸クラブ設立

*1930年12月 横浜クラブ設立。

*1931年 東京クラブ設立。

*1932年：国際協会・日本区設立

*1940年：日本区が国際協会脱退(1937年・日中戦争、1940年・日独伊三国同盟)

*1946年：第22回「ワイズ」国際大会で、中国代表が日本区の国際復帰を提案、可決

*1972年：国際憲法の制定(奈良伝氏の提案)

*1975(昭50)年：鈴木謙介氏・日本初の国際会長に就任

*1984年：竹内敏明氏(横浜⇒熱海クラブ)国際会長に就任

*1994年：青木一芳氏(千葉クラブ)国際会長に就任

*2010年：藤井寛敏氏(東京江東クラブ)が国際会長に就任。横浜にて国際大会開催。

7. ワイズメンズクラブの現状

① 世界

*76カ国、1539クラブ、25,076人の会員(2022年2月)

* 地域構成

(1) アジア太平洋地域

(2) 韓国地域

(3) インド地域

(4) カナダ・カリブ海地域

(5) アメリカ地域

(6) ラテンアメリカ地域

(7) ヨーロッパ地域

(8) アフリカ地域

② アジア太平洋地域

(1) 東日本区(794人)

(2) 西日本区(1366人)

(3) 台湾区(503人)

(4) 東南アジア区(469人)

(5) スリランカ区(86人)

- (6) フィリピン区 (184 人)
- (7) オーストラリア区 (149 人)
- ③ 東日本区 (2022.1.1 現在、58 クラブ、794 名)
- (1) 北海道部 (4 クラブ 46 名)
- (2) 北東部 (10 クラブ 133 人)
- (3) 関東東部 (11 クラブ 130 人)
- (4) 東新部 (7 クラブ 81 名)
- (5) あずさ部 (10 クラブ 171 人)
- (6) 湘南・沖縄部 (7 クラブ 83 人)
- (7) 富士山部 (9 クラブ 150 人)
- ④ 湘南・沖縄部 (2022.1.1 現在、7 クラブ、83 人)

- (1) 横浜クラブ (12 人)
- (2) 鎌倉クラブ (11 人)
- (3) 横浜とつかクラブ (11 人)
- (4) 厚木クラブ (11 人)
- (5) 金沢八景クラブ (11 人)
- (6) 横浜つづきクラブ (16 人)
- (7) 横浜つるみクラブ (11 人)

8. ワイズメンズクラブの組織

① 国際組織

*国際会長 (ウルリック・ラウリドセン氏) ・エリア会長 (チェ・チ・ミン氏) ・区理事・部長・クラブ会長

② 東日本区・湘南・沖縄部・横浜クラブの場合

*区理事<佐藤重良 (甲府 21)> ・部長<小松仲史 (厚木)> ・クラブ会長<古賀健一郎 (横浜)> ・クラブ会員

③ トロイカ体制

*現理事・直前理事・次期理事によるトロイカ方式のガバナンス (部長、会長も同様)。

④ 東日本区の法人化

*2021 年 6 月、「一般社団法人」設立。

9. ワイズメンズクラブの活動

① 会費

*平均月額 3,000 円×12 か月=36,000 円 (内 15,000 円 : 区費、10,000 円 : ユース事業・CS 事業等として区へ献金、残り 11,000 円 : クラブ独自の活動)

② 代表的事業活動

(1) ユース事業 : YMCA ・ワイズの若者世代の育成と活動支援。

*YVLF (ユースボランティア・リーダーズフォーラム) : YMCA の若手リーダー育成プログラムとして、各クラブが毎年@20,000 円宛拠出して行うキャンプ方式の研修。(2022 年度・@20,000 円×58 クラブ=1,160 千円)。研修内容は、原則として担当 YMCA に一任。

*IYC・AYC (国際・地域ユースコンボケーション) : ワイズの国際大会・地域大会と同時に開催されるユースの国際規模の集い。

*YEPP (Youth Educational Exchange Program) : ワイズ子弟高校生の留学交換事業 (1 年間)。

*STEP (Short Term Youth Exchange Program) : ワイズ子弟短期交流事業 (3-12 週間)

(2) 地域奉仕・YMCA サービス事業

*地域ボランティア活動 (東日本大震災被災地支援、幼児サッカー大会開催、保育園等への絵本の贈呈、チャリティーコンサート)。

*YMCA プログラムへの参加 (チャリティーラン、AIDS 文化フォーラム、バザー、会員大会等)。

*YMCA 日本語学校留学生の日本語スピーチコンテスト。

(3) 国際・交流事業

*BF (ワイズメンの国際公式訪問費用拠出のための基金、TOF (発展途上国支援基金)、RBM (マラリア撲滅国際基金)、YES (Y's Extension Support・新クラブ設立基金)。

*IBC (国際兄弟クラブ)、DBC (国内兄弟クラブ) の促進。

(4) 会員増強事業

(5) ネット事業 (YMCA 保育園への絵本寄贈など)

II. 【YMCA について】

1. YMCA の誕生と使命

① YMCA の生い立ち

*1844 年、ジョージ・ウィリアムズを中心とする 12 名の教会青年によって、ロンドンで設立。地方からロンドンの服地問屋に働きに出た彼は、過酷な条件下で働く同年代の若者が多いことに驚く。彼らが身を持ち崩したり、犯罪に走ることを防止する為に、恵まれない青年たちの為の教会青年による聖書の学びと祈りの会を作る。

*集まった教会青年の所属教会は、英国国教会のみならず、組合派、メソジスト派、バプテスト派など多様であった。YMCA のエキュメニカル性格。

*YMCA 運動は産業革命の進展下、ヨーロッパ・アメリカの各都市で、教会青年による奉仕と実践活動を目的とする運動の輪として広がる。

*YMCA 創設 11 年後の 1855 年、アンリ・ジュナンの呼びかけによって、最初の YMCA 世界大会をパリで開催。「パリ基準」を採択し、世界 YMCA 同盟を結成。

② 「パリ基準」1855 年

*われら世界の YMCA は、イエス・キリストを聖書に従ってわが神わが救い主と仰ぎ、信仰とその生活において彼の弟子でありたいと願う青年たちを一つとし、イエス・キリストの精神が広く青年の間に活かされるように、その努力を結集する。

その他のことがらについての意見の相違は、それ自体としていかに重要であっても、そのことによって世界同盟を構成する加盟および準加盟 YMCA の間の友好的な関係を損なうものであってはならない。

③ 「カンパラ原則」1973 年

* (前略) 今日の世界の中にある YMCA の現実に照らしてみると、パリ基準を再確認するという事は、すべての YMCA とその会員たちに、神の同労者として次のような使命の自覚を促す。

- (1) すべての人々に、平等な機会と正義とが実現されるように努力する。
- (2) 人々の間に愛と理解に満ちた人間関係が可能になるような環境を作り出し、それを守っていくように努力する。
- (3) YMCA の中に、また社会の様々な組織や団体の中に、誠実さ、豊かさ、創造性が生かされるような状況を作り出し、また維持するように努力する。
- (4) キリスト教的経験の多様性と深さが具体的に示されるようなリーダーシップと新しい型のプログラムを開発し、育てていくように努力する。

(5) 全人としての成長のために努力する。

④ 日本 YMCA 基本原則

*私たち日本の YMCA は、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、世界の YMCA とのつながりの中で、次の使命を担います。私たちは、すべての人々が生涯を通して全人的に成長することを願い、すべての命をかけたえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人一人の人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし、痛みを分かち合う社会を目指します。

私たちは、アジア・太平洋地域の人々への歴史的責任を認識しつつ、世界の人々と共に、平和の実現に努めます。

(1996年6月15日第106回日本YMCA同盟委員会採択)

2. YMCA の現状 (世界)

① YMCA の規模

*120の国と地域で約10,000のYMCAと6,500万人の会員が活動。

世界YMCA同盟(総主事:カルロス・ザンヴィ氏 本部:スイス・ジュネーブ)

アジア太平洋地域(総主事:Nam Boo Won氏)・アメリカ・カナダ地域

ラテンアメリカ・カリブ地域・アフリカ地域・中東地域・ヨーロッパ地域

② YMCA の働き

*YMCAは世界最大の民間公益団体。国連は非政府組織(NGO)の役割を評価し、YMCAを国連・経済社会理事会や協議会参加メンバーに認定している。

3. YMCA の歴史と現状 (日本)

① 日本における YMCA の沿革

- ・1880(明13)年:東京YMCA設立。
- ・1882(明15)年:大阪YMCA設立。
- ・1884(明17)年:横浜YMCA A設立。
- ・1886(明19)年:神戸YMCA設立。
- ・1888(明21)年:東京大学YMCA設立
- ・1901(明34)年:日本YMCA同盟結成。

② YMCA の現状 (日本)

*都市YMCA(35都市) 横浜・東京・大阪・神戸・広島・熊本・・・等

*都市YMCAの現勢(維持・賛助会員:8,600人、プログラム会員:14万人、常勤職員・教職員:3千人、ユースボランティア:6千人)

4. 横浜 YMCA の現況

会員組織 *会員総会(2022年度) 維持会員総数1,315人

*賛助会(法人会員) 2022年度 賛助会員数49社

5. 横浜 YMCA の事業活動

- (1) 健康教育(キャンプ・水泳・スキー・サッカー・ウエルネス等)
- (2) 語学教育(幼児・中高生・成人に対する外国語クラス等)
- (3) 専門学校(作業療法・日本語・健康福祉・スポーツインストラクター・国際ビジネス等)
- (4) 保育(とつか・とつか乳児・マナ・山手台・いずみ・東とつか・東かながわ等14保育園)
- (5) アフタースクール(菊名小学校・横須賀学院小学校等15拠点での学童・キッズ活動)
- (6) オルタナティブ(発達障がい児・者支援プログラム)
- (7) 高齢者(大和YMCA ライフサポートセンター・ライフサポートセンターつるみ等における介護事業)
- (8) 指定管理・施設(生麦地域ケアプラザ・東本郷ケアプラザ・富士山/三浦YMCA等)
- (9) その他(アンジュ・レザン他)

卓話の後はビジネス。今後の予定等を確認して、閉会点鐘にて会を閉じた。

《今回の入会式に臨み、そして鈴木茂ワイズの貴重な卓話をお聴きして・・・》

ワイズとYMCAの活動を結び付ける働きは大切であり、クラブの活性化にもつながる。さらに、横浜クラブ90年の歴史の中で、クラブの諸先輩方は、横浜YMCAの特色の一つでもある『青年たちの国際交流の必要性』を積極的に説き、YMCA・ワイズの連携・連帯をもって、その国際事業に力を注いできた。そうしたクラブの伝統的な特色において、秋元さん、立花さんと一緒に、『青年達の温かい絆となる国際交流を含む希望ある世界』の新たな創造に向けて、横浜クラブは貢献していきたいと思う。(横浜クラブ会長 古賀健一郎)

自己紹介

秋元 美晴



私は、2023年4月13日(木)に横浜クラブのY'men's クラブの入会式を経て会員として認めていただいた秋元美晴と申します。大学は青山学院大学に進み、日本文学科で近代文学を専攻しました。その後、日本語教師養成講座で勉強し、日本語教師となりました。日本語を教えれば教えるほど日本語のことを何も知らないことを痛感し、30歳の時に大学院に入りました。大学院では、日本語学を専攻しました。当時は日本語教育という分野が確立していませんでしたので、指導教授は私が日本語教育に進むことに大反対でした。日本語学を学び、日本語の研究者になるように勧めてくださいました。恩師は言語過程説で有名な時枝誠記の直弟子でしたので、当然のことだったと思います。しかし、私は博士課程のときに夫の留学で英国に参りまして、ロンドン大学のSOASで1年間日本語を教えるから、ますます日本語教師として生きていこうと思うようになりました。その後いくつかの大学で非常勤をしたのち、1989年に恵泉女学園大学に奉職し、2016年に退職いたしました。学生生活も教員としての生活もキリスト教主義の大学でしたのに、キリス



例会出席者

ト教には寄り付かないようにしておりました。ところが、2018年ころから教会に通うようになり、2021年に用賀教会の白正煥先生に洗礼を授けていただきました。クリスチャンになったことも、今、こうして横浜クラブのY'men's クラブの会員の一人としていただいたことも、不思議でなりません。神様がお考えになることはわかりません。私は粗忽者です。ご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

自己紹介

立花 明美



2023年度より横浜ワイズメンズクラブの担当主事となります立花と申します。長年横浜 YMCA に勤めておりますがワイズメンズクラブとの関りがなく、これまで過ごしてまいりました。私の横浜 YMCA 歴について少し触れたいと思います。入社したさいは

横浜中央 YMCA 総合受付の配属となり、その後は健康教育部や（現在の）オルタナティブ事業部、生涯学習部などで子どもから高校生までの児童に携わってきました。現在の専門学校事業部に配属となったのは15年前になります。忙しい中ではありますが、専門学校での YMCA 活動はとても喜びを感じています。特に留学生対応は、私にとってやりたかった事の1つです。今は直接留学生や日本語学習者に教えることはありませんが、指導者や日本語学習者へのサポートを常に考え、その時に最善と考える事を選ぶようにしています。留学生にとって日本語学習がゴールではなく、その先にある進学だったり就職だったり、日本でかなえられるかがゴールです。そのためにも、教員と職員と共に最善を尽くしたいと思っております。

横浜中央 YMCA では専門学校生のほか子供たちや成人英会話の方も受付に来ます。そのため常にアンテナを張って、その時その時に必要なサポートを、必要な人に届けたいと考えて行動できる人になりたいと思っています。それは、横浜 YMCA の先輩方が私に教えてくださいました。そのことを私は大切にして YMCA 活動を行っています。

まだまだ学び足りませんが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

『横浜中央 YMCA キックオフミーティングに出席して』

古賀健一郎

4月3日(月)16時 横浜中央 YMCA キックオフミーティングが横浜中央 YMCA 9階チャペル及びオンライン形式にて開かれた。

横浜中央 YMCA の 2023 年度の新たなスタートにあたって、保育園、健康教育、専門学校、高齢者、アフタースクール、語学教育、オルタナティブの各事業の第一線で活躍されている若手職員の方々を中心に、それぞれの方々とのさらなる連携を図る為に集まり、ワイズメンズクラブの立場で出席した私にとっても、豊かな交わりの時となった。

最初に、横浜中央 YMCA の長田光玄長が所信を述べられた。

2023 年度開始にあたって【（横浜 YMCA 創立 150 周年に向けた）横浜 YMCA VISION 2034 に基づく活動方針】として、①すべての子どもの豊かな成長を支える機会とその環境作りの為に、②子育て育ちを地域で支える為に、③すべての人の健康づくりを支える機会とその環境作り、④一人ひとりのライフステージを地域で支える為に、⑤積極的に社会参画するユース世代の人材育成の為に、⑥ユース(YMCA での“ユース”は 35 歳以下を呼ぶ)の、ユースのための、ユースによる活動支援の為に（ユースが育成から活躍していく場所作り“ユースカンファレンス”の動き）、⑦持続可能な社会、人々が共生する社会の実現の為に（SDGs など、私たちが環境に対して、何ができるかを考える）、⑧社会課題を共に担うパートナーとの連携を強める為に（地域の方々と共に YMCA が考えている運動をどう展開していくか）。

上記の 8 つのゴールと 24 の重点項目がある。各事業に携わっている方々が共有し、責任者と確認し合って、目標を実行してほしい。

また、“働く”ことをどうとらえるか?①YMCA にとって関係の深いキーワード「こども」「家庭」「地域」「ボランティア」に対して、どういうことを YMCA がやっていくべきか考えていく。②「“プロ”意識」「“公益”財団法人横浜 YMCA」「“公益”の意味を理解」「(仕事での)“成功”体験」「キリスト教」(キリスト教の教えをもって“他者への思いやり”を大切に)のキーワードも意識して、仕事にあたってほしいとの考えを示された。

この後、「トーク・フォークダンス」の企画があった。踊りではなく、フォークダンスのように、どんどん相手を変えて対話をする方法。円を描くように並べられた椅子の向かい側に、同じようにその椅子と向かい合わせになるよう、もう1周円形に椅子が並べられ、人々はその公司向かい合わせで座り、1分間ずつ対話をしたら、外側に座った人だけ左にずれていく。こうすると、どんどん新しい人と会話していくので、多くの人とコミュニケーションがとれ、たった1分とはいえ、お題(好きな食べ物、趣味、仕事のやりがい...等)が与えられて、老若男女が語り合い大変盛り上がった。

単なる交流を超えて、相手を知り、またそれぞれの相手との違いを理解しあった。

さらに、“他者を受け入れる、違いを受け入れながら”一緒に何かができることを見出したい。こうした交わりから“新たな YMCA の創造”を予感させる企画だった。

(横浜クラブ：秋元・立花・古賀出席)

『近況一初めての骨折生活』

田口 務



1月末に、不注意で右足首を骨折しました。幸い手術には至りませんでした。が、ギプスで固定した生活が一か月、ギプスを外してからのリハビリが現在二か月となりました。日常生活は普通通りですが、まだリハビリと定期的な診察が続く、医師から「腫れは、半年ぐらいいはありますよ」と言

われ、完治まで結構時間がかかるものだと感じています。

ギプスで足首を固定していた際には、履く靴がなく、ネットで骨折ギプス用靴と検索したところ、骨折の部位によりさまざまタイプのものを見つけることができました。利用者の多数のコメントと使用感のアドバイス、中には自転車まで乗れたとか、誰にも相談できない骨折の悩みへの回答があふれており、骨折生活の見通しを立てるのに大変役立ちました。

骨折という限られたマーケットの商品に、ネット購入という仕組みの便利さを痛感しました。さらに、この品物を買った人はこんなものを買いました、という紹介が出ており、見てみると入浴用の防水足カバーや、ギプスの上から履ける靴下とか、便利グッズが紹介されていて、即座にギプス用靴、入浴防水カバー、ゆるゆる靴下の3点を選び、翌日到着しました。

入浴防水カバーは外国製で、ゴム素材で履くだけでピタツとなり、一人で風呂に入ることができて快適でした。靴下も助かりました。杖とギプス用特大靴での生活となり、通勤時には、電車が混んでいない時間を選びました。駅の乗り換えは当初エスカレーターが怖くて、エレベーターを探しました。骨折から2週間経った時期に東西ワイズ交流の神戸大会への出張があった際には、練習してエスカレーターに乗れるようになっていたので、今度は杖が邪魔になり、杖なしで大会に臨みました。大会挨拶の登壇はドキドキでしたが、骨折に気づかない方も多く、骨折生活に自信を持ちました。しかし、杖がないと周りからの気遣いがなく、電車でも席を譲られなくなり、仲間と歩いても普通の手で歩かれ、自分で言わないと気づいてもらえない生活になりました。

私は、ギプスが外れれば治るものだと思っていましたので、3月末の米国での世界YMCA各国同盟総主事の会議には、治っているので大丈夫と思い申し込んだものの、まだ痛みと腫れが残り、レントゲンでも十分つながっていない中での出張となりました。米国コロラド州デンバーから車で3時間ほどのエステスパークYMCAが会場で、標高2700メートル、なんと雪が降り、マイナス14度で、広大な敷地の中に宿泊棟、会議棟、食堂棟と別れており、スノーブーツを骨折の足の部分のひもを最大限にあけて何とか履いて、完全防備で過ごしました。なんととっても凍結した道を、二重に転んで骨折しないように慎重かつ丁寧に、一步一步歩く生活でした。エクスカッションがあり、それは歩きが少なめと思われるバスツアーを選択したのですが、氷結湖を見るだけと聞いたはずなのに雪道を30分歩いたのは、命がけでした。そのバスツアーは、3000メートルを超えたところもあり、息苦しさも加わり、滑らないように気を使いながら絶景を楽しみました。

カルシウムと鉄分が大切と言われ、それらを含むヨーグルトや食品を努めて食べましたが、骨のつながりがなかなか進みません。ネット情報を読むと、コーヒーやアルコールは、摂取したカルシウム等を排出させてしまうので注意と書かれており、後の祭りでした。治癒だけでなく、骨粗しょう症対策もしなければならぬ年齢にあることを自覚し始めた骨折生活を過ごしています。

日時：4月27日(火) 17:00~17:30

場所：Zoomによる開催

出席者：伊藤、古賀、立花、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

資料により6月までの予定が示され、了承した。追加して、6月6日(火) Y-Ys協議会を加えた。当クラブが担当になっているので、準備事項など確認した。

2. 協議・報告事項

1) 5月、6月の横浜クラブの第1例会予定について

① 5月例会 (5月11日)

卓話：「日本語学科について」(仮題) 校長の立花明美ワイズとクラス担任の専任講師で日本語学科の説明をすることとした。時間も定例通りとする。

② 6月例会 (6月8日)

「クラブ総会準備」例会とする。それに先立ち、伊藤ワイズから資料準備の担当を出してもらい、各人準備していくこととした。

2) 横浜YMCA会員総会について

5月27日(土) 14:00~16:30 於 聖光学院ラムネホール

追って連絡がある。時間のある方は参加してほしい。

3) 第26回東日本区大会について

6月3日(土)~4日(日)、APIOアピオ甲府(甲府市)で開催される。

当クラブからの参加予定：大高、古賀、佐竹、立花、古田(5名)

詳細は大会ホームページ参照のこと。

4) 次年度クラブ役員について

会長：古田和彦 副会長：秋元美晴 書記：古賀健一郎

会計：大高治

ブリテン担当：伊藤誠彦 担当主事：立花明美 監事：松島美一

なお、各事業主査は古田ワイズからお願いする。

5) ブリテン5月号編集計画について

別途伊藤ワイズからの提示通り承認した。原稿締め切りは5/1(月)



担当主事 立花 明美

4月1日(土)より新しい年度が始まりました。学生やメンバーのみならず、新しく加わった人たちが、新しい地での活躍する場となります。

- ・4月1日(土) 新年度礼拝を横浜海岸教会にて実施
- ・4月7日(金) 美しい港町横濱をつくる会 定期清掃活動
- ・4月27日(木) 常盤町清掃活動
- ・4月29日(土) ヘルシーキッズデイ

5月27日(土) 14時~17時に横浜YMCA会員総会が聖光学院ラムネホールにて開催されます。今年度の会員総会は

会場とオンラインライブ配信とのハイブリット形式で実施いたします。これにより、決議は書面決議とさせていただきます。

【主な議案】

- ・2022 年度報告（事業報告と決算 報告）
- ・2023 年度計画（今年度の方針計画と予算案）

<表彰>

- ・YMCA 運動に尽くされた方への感謝を込めて記録として残す「奉仕の書」
- ・ユースリーダーの活躍に対する「奉仕賞」

総会構成員のご案内が届いた皆様におかれましては、書面による決議へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

5月例会プログラム

日時：5月11日（木） 18:30～20:30

場所：中央YMCA+Zoom

司会：古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶
2. ワイズソング・ワイズの信条
3. 今月の聖句
4. ゲスト・ビジター紹介
5. 「横浜 YMCA 学院専門学校 日本語学科について」
★立花明美(横浜 YMCA 学院専門学校長)
★入江香寿美(横浜 YMCA 学院専門学校日本語学科専任講師)
6. ビジネス・報告
7. 閉会点鐘

例会報告：大高ワイズ

6月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
3-4	土		第26回東日本区大会	APIO 甲府
6	火	19:00	第98回Y-Ys協議会	中央Y
8	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
24	土	15:00	湘南・沖縄部第3回評議会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 立花明美にご連絡下さい。

メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080